

令和2年度 第一回学校運営協議会 議事録

日時・場所：令和2年7月4日（土）午前9時30分～11時30分（布施北高等学校 展開1教室）

出席者：高田 克己様（会長）・中西 進泰様（副会長・司会）・菊地 栄治様・塚本 佳秀様・

北野 正浩様・片山 晴江様・校長・教頭（2名）・事務長（1名）・首席（2名）・教諭1名

- 1 会長挨拶 コロナ感染が拡大する状況における企業や学校の現状と取り組みについて
- 2 校長挨拶
- 3 事務局より 学校運営協議会実施要項確認・教科書選定（※承認）について
- 4 学校の現状と課題について

【報告】入試・学校生活・進路・行事予定の変更・学校経営計画（※承認）について

【ご意見】

- ・遅刻・欠席等の数値が変化しているのは学校の努力の結果。良い方向に変化している。
- ・学校の先生との信頼関係や仲間の存在が学びにつながる。
- ・キャリア教育とデュアル実習は布施北の肝になっている。OB・OGの活用等、地域のポテンシャルの活用が重要。
- ・人権教育が布施北の基盤。外国籍の生徒も多いし、人権教育をもっと前面に打ち出してやってほしい。
- ・進路実績については一定の成果をあげているが、今年度はコロナの影響もあり斡旋就職希望者が増加。進路決定率を更にあげることが重要。直に社会を見聞きできるデュアル実習等を通して、直接体験することに活路がある。1年次のインターンシップの回数や行き先を増やすことを検討してはどうか。
- ・コロナの影響と学習保障の観点から土曜授業が増加し行事と夏休み冬休みが減少。授業ばかりで学校が嫌になるのではと不安。何よりも魅力的な場づくりが大事。行きたいという動機づけが必要。
- ・特色づくりのために予算要求もすべき。

5 協議・意見交換

【テーマ】コロナ禍で見た学校の課題と新しい生活様式での学校の特色づくり

- ・デュアル実習や文化祭等、生徒のために培ってきた様々な行事には歴史がある。減らさずに実施する工夫が大切。
- ・生徒の命も教員の命も守るためにも、全ては生徒のためという発想で柔軟に対応すべき。
- ・オンライン授業等においては、受ける側の生徒がどう受け取るかという想像力が必要。準備等大変だが、教員にもプラスがある。誰かがアクションを起こすと、いろいろな人に響く。
- ・エッセンシャルワークは医療従事者だけでなく、コンビニ店員や農家、教員もそうである。コロナは、命の維持の大切さや社会のあり方そのものを問いかけている。
- ・先生も起業家も生徒のために努力し盛り上げていき、生徒もそれに応えるような意識づくりが大切。
- ・世の中全体が初めての経験。何が正しいかは難しい。何をどうしたらいいのかという発想が重要。
- ・第1波の経験が無駄にしないためにも、第2波、第3波に備えて、方向性を決めておいてほしい。また、学校行事は貴重な経験であり、大切な思い出なので、大事にしてほしい。
- ・コロナ対応は、一緒に経験して皆で乗り越えていくもの。どの世代よりも強く生きていける世代になる可能性もある。学校は、予防等、きちんと対策を講じながら、生徒をしっかりと育ててほしい。
- ・人権教育とキャリア教育が布施北の柱。デュアル実習をより良い形で継続していくことが大切。文部科学省の事業申請等、挑戦を続けてほしい。

5 校長挨拶（終了）